

1. はじめに

2003年4月,

ウェア・ソフトウェア製品群を利用しており、倉敷地区、千葉地区、知多地区では、主に富士通（株）の製品を採用していた。これらの地区では、Java アプリケーションシステムの開発においても、既存

## 4. 共通フレームワークの効果と今後の課題

### 4.1. 共通フレームワークの効果

図3に示すように、共通フレームワークは、倉敷地区の厚板・薄板リフレッシュに加え、京浜地区の新酸洗、千葉地区の薄板ピテ丘老控、黒川薄板伴浜旧焔のレ加敷狼じ、順罵まう加レの厚区

環境への移植を行っているが、これは共通フレームワークにより、アプリケーションプログラム資産とプラットフォームが独立しているから可能となったものである。プログラムの修正を行うことなく、劣化更新やコストダウンのために、プラットフォームを自由に選択・変更できるようになった。

アプリケーションシステムは、ビジネスの変化に柔軟に対応し、継続的に成長させていく必要がある。共通フレームワークにより、このアプリケーション戦略とプラットフォーム戦略を独立して推進できるようになった意義は大きいと考える。は通